

2014年3月25日

「第2弾 子供調査 イルカ&クジラ見つけ隊」

正 智子

日時 平成26年3月23日（日）

講師 興克樹（奄美海洋生物研究会）

参加者 参加者21名（大人4名 小人17名）

場所 大島海峡及び加計呂麻島・与路島南西海域

目的

奄美大島瀬戸内町の大島海峡で多くみられるミナミバンドウイルカと冬季来遊するザトウクジラの生息状況の調査。1月に実施した調査では、悪天候のため十分に鯨類調査することができなかつたため、再調査を実施した。3～4月は、奄美海域周辺に冬季来遊するザトウクジラも終盤を迎える時期にあたる。地元の子供たちが、実際に行われている鯨類調査を体験することで、奄美の海への興味を再認識してもらう機会とした。

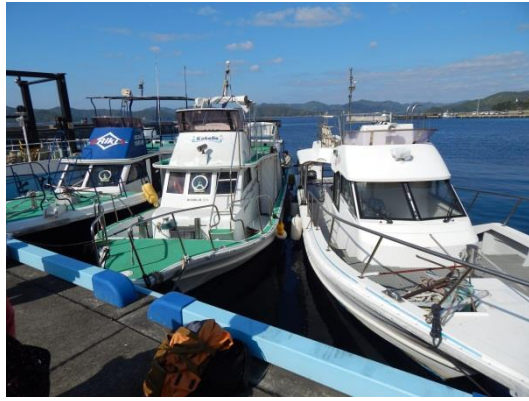
成果

加計呂麻島西側周辺の海域を3隻の船を利用して調査を実施した。加計呂麻島・深浦にて「ミナミバンドウイルカ」1群15～20頭の群れを確認した。子イルカも見られた。水中マイクを用いての鳴音記録を行った。須子茂離れにて、かすかにクジラの鳴き声を聞くことができた。与路島の南西にて、親子クジラを発見した。その後、2時間ほど同海域で観察することができた。子クジラが船下を通過したり、船の目の前に現れることもあり十分に観察することができた。さらに、大島海峡油井小島沖にて、親子クジラを確認した。20分程で薩川湾入口（西側）へ移動した。合計ザトウクジラ2群4頭を観察することができた。





▲ミーティング



▲鯨類調査を行った3隻の船



▲ミナミバンドウイルカ (深浦～芝)



▲水中マイクを投入



▲鳴き声を聞く



▲与路島南西海域・親子クジラ (右:子クジラ)



▲油井小島海域・親子クジラ



▲クジラの足跡 (潜水した跡にできる)

2014年3月25日

講座「奄美と沖縄の海より ザトウクジラ最新照合結果報告」

正 智子

日時 平成26年3月23日（日）

講師 興克樹（奄美海洋生物研究会）

参加者 参加者12名

場所 瀬戸内町立図書館・郷土館2階

目的

2006年～2013年までに確認された奄美大島のザトウクジラ出現状況と今季（2014年）の確認報告を実施する。2013-2014年だけで識別個体は75個体（3/18現在）が確認されている。沖縄県の識別個体との照合結果により、ザトウクジラの回遊ルートや繁殖海域などの具体的な生態系を知る機会とした。また、実際の映像・写真をまじえ、奄美大島の海の豊かさを知り、海洋生物の重要性や今後の活用などを考える事を目的とした。

成果

- ・今季のザトウクジラ調査活動報告
- ・1月28日に確認された琉球列島で5例目となるセミクジラの紹介
- ・沖縄と奄美で確認された識別個体ザトウクジラの尾びれ最新照合結果
- ・今後の取り組み【基礎データ、自主ルール、情報発信、情報収集、燃料代の補助】
- ・体制づくり【珊瑚礁や海の希少種など資源の多さに答えられる取り組み・体制づくり】

